

# autocult

Neumann VW (東ドイツ, 1958)

プロトタイプ

Scale 1/43

#06048

available

10/2021

Limited edition 333 Stck.



## 無から何かを生み出す

ノイマン家の経営する板金加工会社は1870年からシュプレムベルクの村に存在していた。1950年当時シュプレムベルクは旧GDR（東ドイツ）に属していた。VWとメルセデスの部品の断片が1930年代の他のコンポーネントと同様に工場の庭一面に置かれていた。その中には、1943年に製造されたVWキューベルワーゲンも含まれていた。ウィルヘルム・ノイマンは1947年にそれをスクラップとして収集し、工場の敷地に持ち込んだ。まさにこの車のシャーシと車軸が、1955年にユニークな乗用車の基礎として機能した。

ウィルヘルム・ノイマンの2人の息子、20歳のエアハルトと23歳の兄マンフレッドは、自分の車を作ることを夢見ていた。デザインはエアハルトが設計した。彼は自分のアイデアを紙に書き、最初にスケール1:10で縮小モデルを成形した。彼はデザインが希望に叶うまで、この準備作業に何百時間も費やした。そしていよいよ二人の兄弟がデザインに満足し、板金から個々のパーツを実物大に作る時が来た。特別な外見の特徴

はプレキシグラスによって形成された革新的リアウィンドウだった。ノイマンのフォルクスワーゲンの製造技術は既存の個々の部品から生まれたものであった。たとえば、ステアリングコラムはヴォルフスブルク工場のかつての生産品を元にしたものだった。リアライト、インジケーター、ヘッドライトは元々ヴァルトブルク311向けに設計されたもので、締めくくりには後輪駆動として機能するトランスミッションを備えた30hpの強力なVWエンジンが使われた。車の板金部分が黒いニトロラッカーで塗装された後、その名無しの車はちょうど880kgの重量があった。

東ドイツの登録番号ZF47-11が付けられ、その黒く塗られた乗用車は1958年から東ドイツの路上でおびただしい数の驚きの表情を巻き起こすことになった。

AutoCult GmbH  
Äußere Further Straße 3  
90530 Wendelstein  
Germany

電話番号 +49 / 9129 / 296 4280  
ファックス +49 / 9129 / 296 4281  
info@autocult.de

www.autocult-models.de